# 中心市街地活性化の背景

## このままでは、まちが衰退してしまいます。

○今日、全国の多くの都市において、これまで都市機能、商業機能が集積し、「まちの顔」としての賑わいと魅力を提供する役割を担ってきた中心市街地が衰退してきているという状況がみられます。

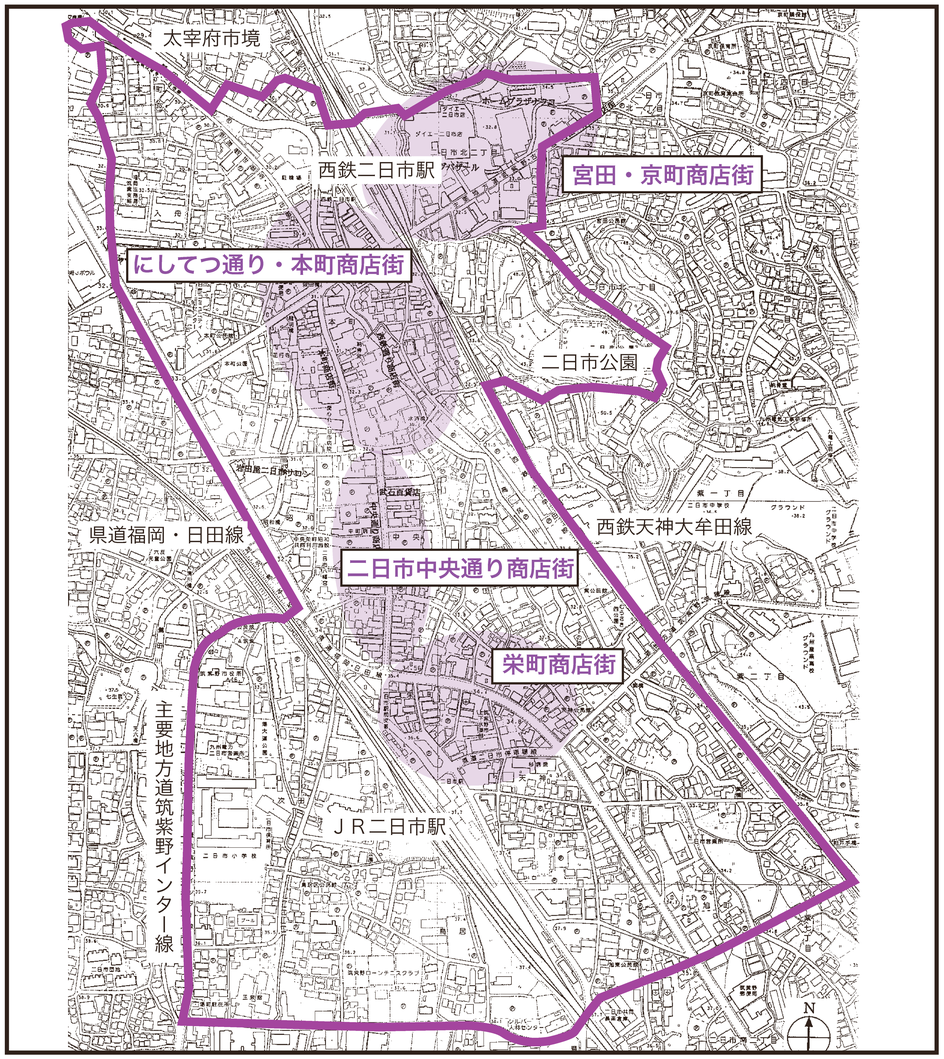
○近年における産業構造の変化やモータリゼーションの深化により、都市の構造は大きく変化し、市街地の郊外への拡大とともに、中心部の人口減少や高齢化が進行し、さらに大型小売店舗の郊外立地等の影響もあいまって、中心部の商店街はかつての賑わいを失いつつあります。

## 「まちの顔」としての魅力、賑わいが失われつつあります。

○筑紫野市においても、全市の人口は増加しているものの、中心部の人口は横ばいで、特に商店街付近の地域では横ばいまたは少しずつ減少し、全市平均よりも高齢化が早いペースで進行し、まちの活力が衰えてきています。

○また、中心商業地の小売店舗は、郊外への大規模店舗による出店の影響もあり、小売店の商店数・売り上げ・面積ともに減少を続け、空き店舗や空き地も増加し、中心部の空洞化が進みつつあります。

**■中心市街地区域図**






# 商店街別及び中心市街地全体の基本コンセプト

## 筑紫野市の独自性を大切にし、「ふるさと」として愛着の持てるまちであるために求められる中心市街地の基本コンセプトを構築しています。

○TMO構想の前提となる中心市街地活性化基本計画における基本方針を踏まえつつ、商店街毎での商業者参加のワークショップによって導き出した商店街別のコンセプトをもとに、中心市街地全体の基本コンセプトを再構築しています。

○商店街別の基本コンセプトは、中心市街地を構成する４つの商店街のまとまり毎に、その特徴を明確にする内容になっています。

○これらの商店街毎の良さを活かしつつ、中心市街地全体としての活性化を図っていくことが重要になります。

○中心市街地全体の基本コンセプトは、これらの商店街毎の特徴を踏まえ、なおかつ福岡都市圏におけるベッドタウン化の流れや博多天神との距離、周辺幹線道路沿いの大型店の立地などに対して、担うべき中心市街地の役割を明らかにすることが求められています。

○筑紫野市の独自性を大切にし、「ふるさと」として愛着の持てるまちであるために求められる中心市街地を目指していきます。

**中心市街地全体の基本コンセプト**

**自慢できるふるさとづくりをリードする中心市街地**

～筑紫野の市民文化（市民が育てる商業と環境の質）が感じられる～
～地元が自慢できるモノ・コト・ヒト・ミセが集まる～

### 商店街別のコンセプト

| | | |
|---|---|---|
| 宮田・京町 | 暮らしを支えるあらゆるサービスを提供する多様性のあるまち | サービス・業務機能と商業が連携した商店街 |
| | | 専門性を重視し個性的な店のある商業集積 |
| | | 子どもからお年寄りまで誰もが安心して楽しめる買い物空間のある商店街 |
| にしてつ通り・本町 | 地元から観光客まで誰もが惹きつけられる庶民的でかつ魅力的な市場のような雰囲気のあるまち | 多様な主張（各店独自のターゲット）のある店の集合体 |
| | | いつも祭りのようなわくわくする楽しい商店街 |
| | | 親しみのある人間スケールの通りと、それを支える環境（駐車場や西鉄二日市駅西口等）がある商店街 |
| 二日市中央通り | 筑紫野市を代表する楽しい顔となるまち | 顔となるに相応しい商業の集積（不足業種の導入を含めて、質の高い横に広がる百貨店のイメージ） |
| | | 都心と呼べるような多様な都市機能（各種の公共施設や金融、サービス、住宅等の施設）が揃うまち |
| | | 高質で魅力的な都市のオープンスペースがあり、そこでの楽しさを提供するまち |
| | | 筑紫野市の歴史と伝統を感じさせるまち |
| 栄町 | 筑紫野市の玄関口としての明るいもてなしと地元に密着した「衣食住遊」すべてがある利便性の高いまち | 便利で使いやすい商業や都市機能（各種の公共施設や金融、サービス、住宅等の施設）が集積するまち |
| | | 来街者をもてなし、高齢者をはじめ誰にでもやさしい都市空間のあるまち |
| | | 筑紫野の魅力をアピールできるまち |

**活性化の目標**

●まちの「顔」、新たな「市」づくり
●歩いて楽しい、人にやさしいまちづくり
●住みよいまち・便利な暮らしの場づくり
●みんなで取り組むまちづくり